

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後支援さくらんぼ		
○保護者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年11月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	3	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和6年12月1日		～ 令和7年11月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年12月15日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	前回の評価時に比べて利用児童数が減っているが、少人数ということで利用児童に対して細かく支援ができること	個別課題を細かく準備し、利用児童ごとに課題を設けることができている。	個別支援計画に基づき、子ども自身が「できた」という体験ができるように課題を工夫をしていく。
2	勤続年数の長い職員が多く、利用児童の細かな変化に気がつきやすい	職員が利用児童の様子を見ながら声をかけていることでいつもと違う反応であればすぐに気が付き職員間で情報共有し、必要があれば保護者へ共有している。	子どもに対する先入観を持たずにかかわりをもてるようにしていく必要がある。
3	こどもの活動スペースが広いこと	常に清潔に保つようになっている。	

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用児童が少ないため、支援が手厚い部分もあるが、子ども同士の関わりが少ない日もある	利用児童の年齢差の影響も考慮する必要がある	最初は職員が間に入り徐々に子ども同士でコミュニケーションが取れるように支援をしていく
2	地域との交流が少ない	学年が上がった関係で下校時刻が遅くなり、サービス提供時間内に地域へ外出することが難しくなっている	下校時間が早まる日などを利用して積極的に地域にでる計画を作成する
3	保護者も参加できる講演会や研修会などの発信が少ない	市内だけでなく、静岡県東部で開催されるものも情報提供する必要がある	職員が情報を待つのではなく、自ら取りにいけるようにするため、自立支援協議会など外部とのかかわりを持てるようにしていく